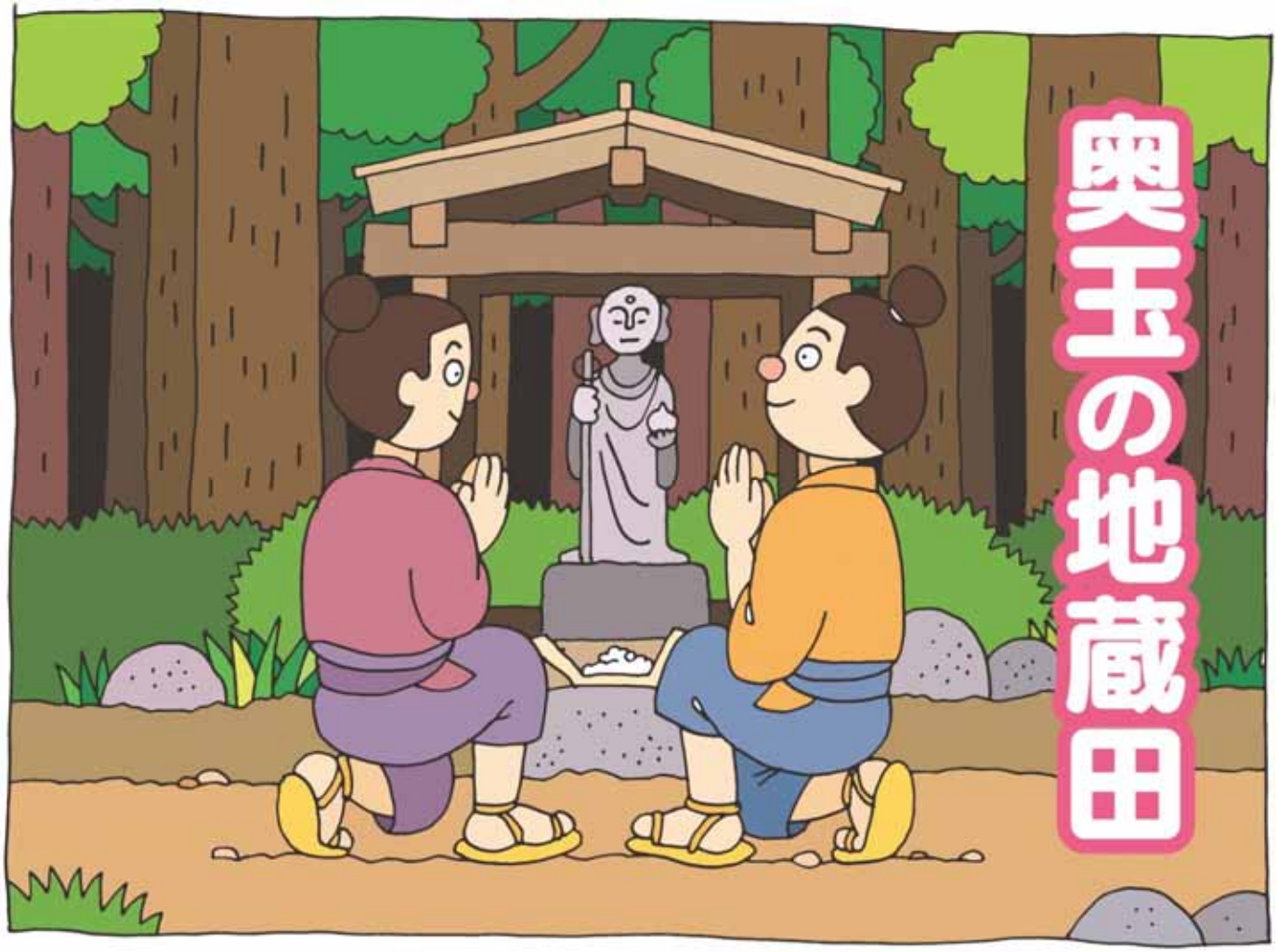
奥玉の地蔵田



【ナレーション】
むかしむかし、西の地方に二人の貧しい兄弟がおりました。

【兄】
「お地蔵様、今日も一日無事に暮らせました。
ありがとうございます。」

【ナレーション】
二人の暮らしは貧しかったのですが、毎日、毎日、近くの地蔵菩薩様に感謝をささげ、食べ物をお供えしていました。

奥玉の地蔵田

【ナレーション】
　長い冬があける頃には、蓄えていた食べ物もすっかり少なくなっていました。

【弟】
「あにさん、こらからどうするべ…」

【兄】
「そうだな…春になればまた誰からか畑を借りて食べ物を作らにゃならんな。」

【弟】
「誰か畑を貸してくれるかな？」

【兄】
「わからん。昨年は寒い年で、食べ物はほとんどとれなかったからな…
　今年はどうだろうか…
　明日みんなに頼んでみるべ。」

【ナレーション】
　不安でしかたありませんでしたが、夜もふけてきたので二人は床についたのです。

奥玉の地蔵田

【地蔵様】
「信仰心篤い兄弟よ、よく聞くがよい。
　東の国に向かって二人で旅に出なさい。
　景色の良い所に出たならそこで暮らすがよい。」

【ナレーション】
　二人は同時に目をさましました。
　顔を見合わせ、

【弟】
「いま地蔵様の夢を見た。」

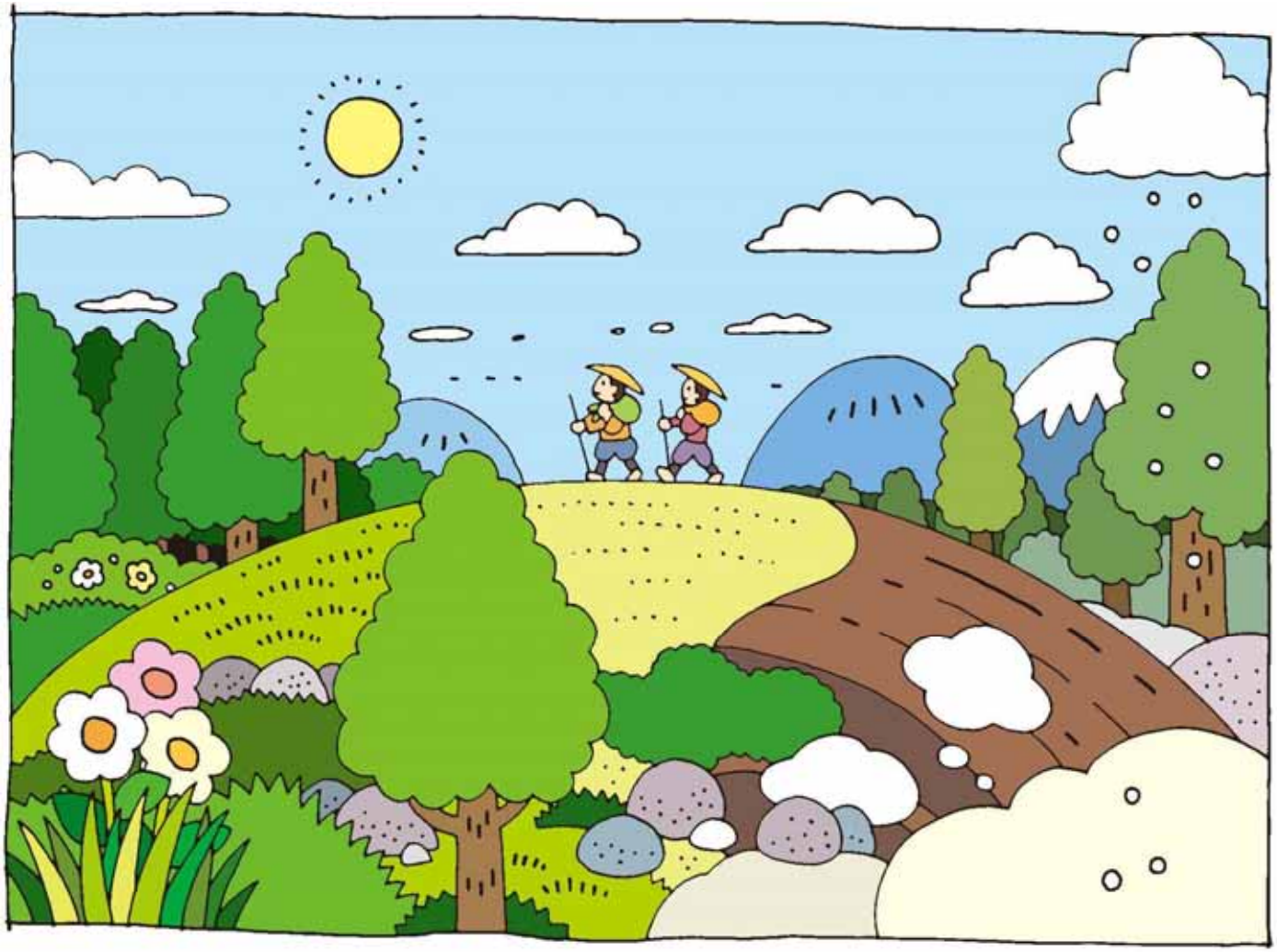
【兄】
「おらもだ。」

【弟】
「あにさん、どうする？」

【兄】
「うっ、うん、おらは信じる！お前は？」

【弟】
「うん、おらもだ。旅さ出るべ。」

奥玉の地蔵田



【ナレーション】
二人はお地蔵様の夢を信じて東へ向けてすぐに旅立ちました。

春まだ浅い時季でしたので、雪も残る頃の出発でした。

何日も何日も歩き続けると草木も緑になってきました。

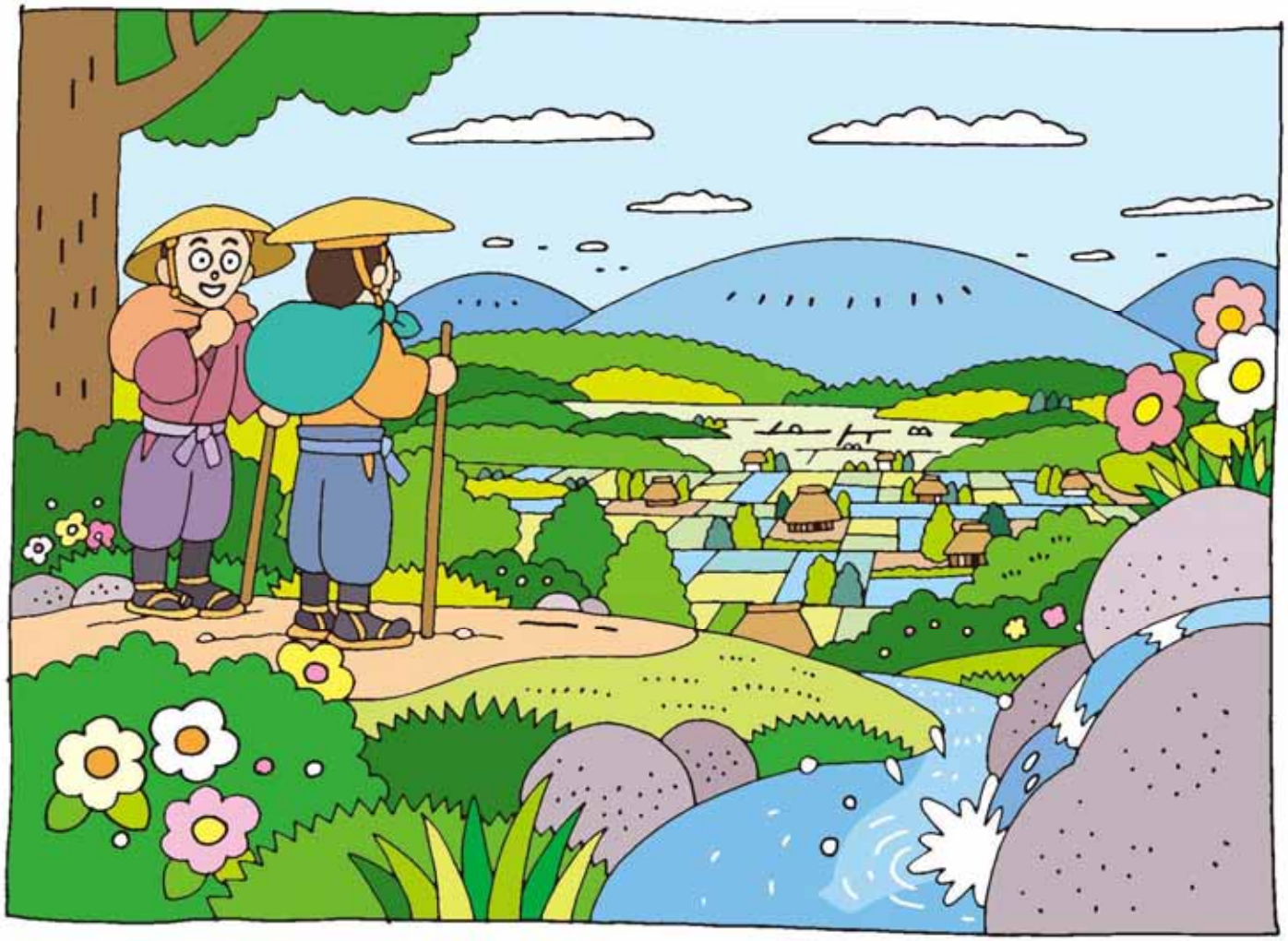
【弟】
「あにさん、あったかくなってきたな。」

【兄】
「そうだな。花も咲いてるぞ。疲れを忘れるようだ。」

【ナレーション】
二人は少しも疑うことなく東に向かって歩き続け、いくつもの山を越え、谷を渡り、さらに歩きました。

【兄】
「おっ、水の流れる音がする。」

奥玉の地蔵田



【ナレーション】
そこには小高い丘からコンコンと水が湧き出ていました。

【弟】
「あにさん、見てみろいい景色だ。」

【ナレーション】
振り返るとそこには豊かな水に恵まれた、のどかな平野が広がっていました。
遠くには心休まる穏やかな山が見えます。
二人は顔を見合わせ、

【兄】
「お地蔵様がおっしゃったのは、ここかもしれんな。」

【弟】
「あにさん、そうだよきっと！ここで暮らすべ。」

奥玉の地蔵田

【ナレーション】
二人は地元の人たちのゆるしを得て、ここに暮らすことにしました。

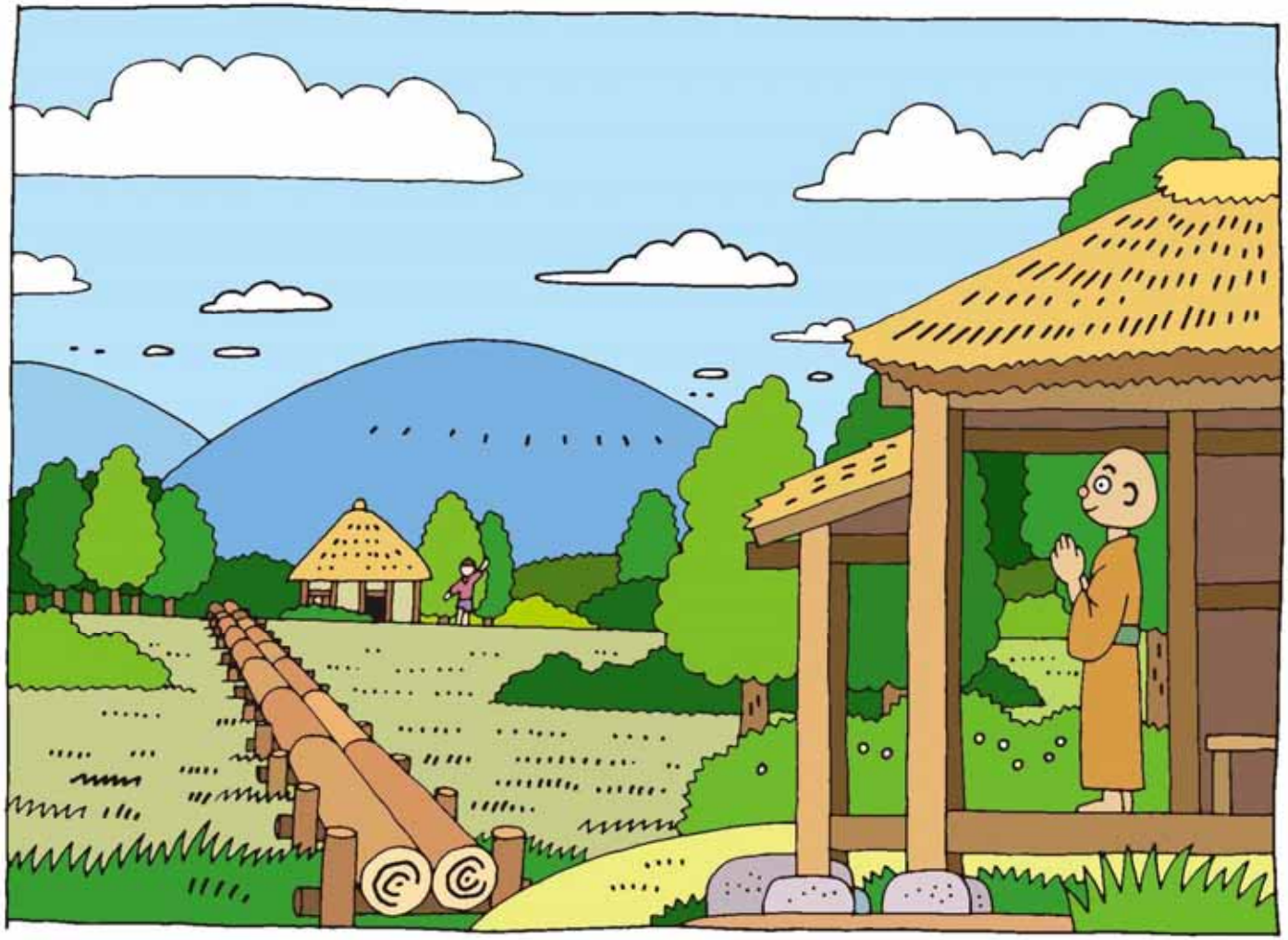
【兄】
「穏やかなところだ。旅に出てよかった。
お地蔵様のおかげだな。」

【兄】
「そうだな、あにさん。」

【兄】
「おらは、お地蔵様に感謝しとる。
ここでわしは坊さんになろうと思う。
お地蔵様をまつり、毎日経をあげ、おらたちや地元の人たちの感謝を伝えたいと思うのだ。」

【兄】
「そうか、それはいいな。
じゃあおらは、向かいの谷地の先で田んぼをつくるよ。」

奥玉の地蔵田



【ナレーション】

兄は小高いところからコンコンと清水の湧き出た所に庵をむすび、お坊さんとなりました。

弟は、その庵から見える向かい側に家を構えました。

その間には谷地があり、長い丸太橋をかけました。

長い橋を渡ったところにあるということで弟の家は「長橋」と呼ばれました。

奥玉の地蔵田

【ナレーション】
　兄は、弟をはじめ、地元の人のためにお経をあげ、無病息災や五穀豊穣を願いました。
　弟は自分で丸い田んぼを作りました。

【兄】
「おやおや、変わった形の田んぼを作ったな。」

【弟】
「あにさん、ここで作る米は、お地蔵様に奉納しようと思ってるんだ。
　だからイネをまたいだりしたら失礼にあたるだろう。
　うず巻みたいに丸く一筋で植えようと思ってこの形にしたのさ。」

【兄】
「ほおお、面白いことを考えたな。
　でも作ったばかりの田んぼは、なかなか育たないかもしれない。
　きちんと手入れをしなさいよ。」

【弟】
「うん！そうするよ。」

奥玉の地蔵田

【ナレーション】
　弟は毎日一生懸命働き、秋には見事にお米が実りました。

【弟】
「あにさん、自分の田んぼで働くなんて、とっても幸せだ。この米を地蔵様にあげて、感謝の気持ちを伝えてくれ。」

【兄】
「おまえの心がお地蔵様にも伝わったことだろう。だから、初めての田んぼでも、実りをくれたことだ。
　今、ここで暮らせているのもお地蔵様の夢のおかげだ。感謝しよう。」

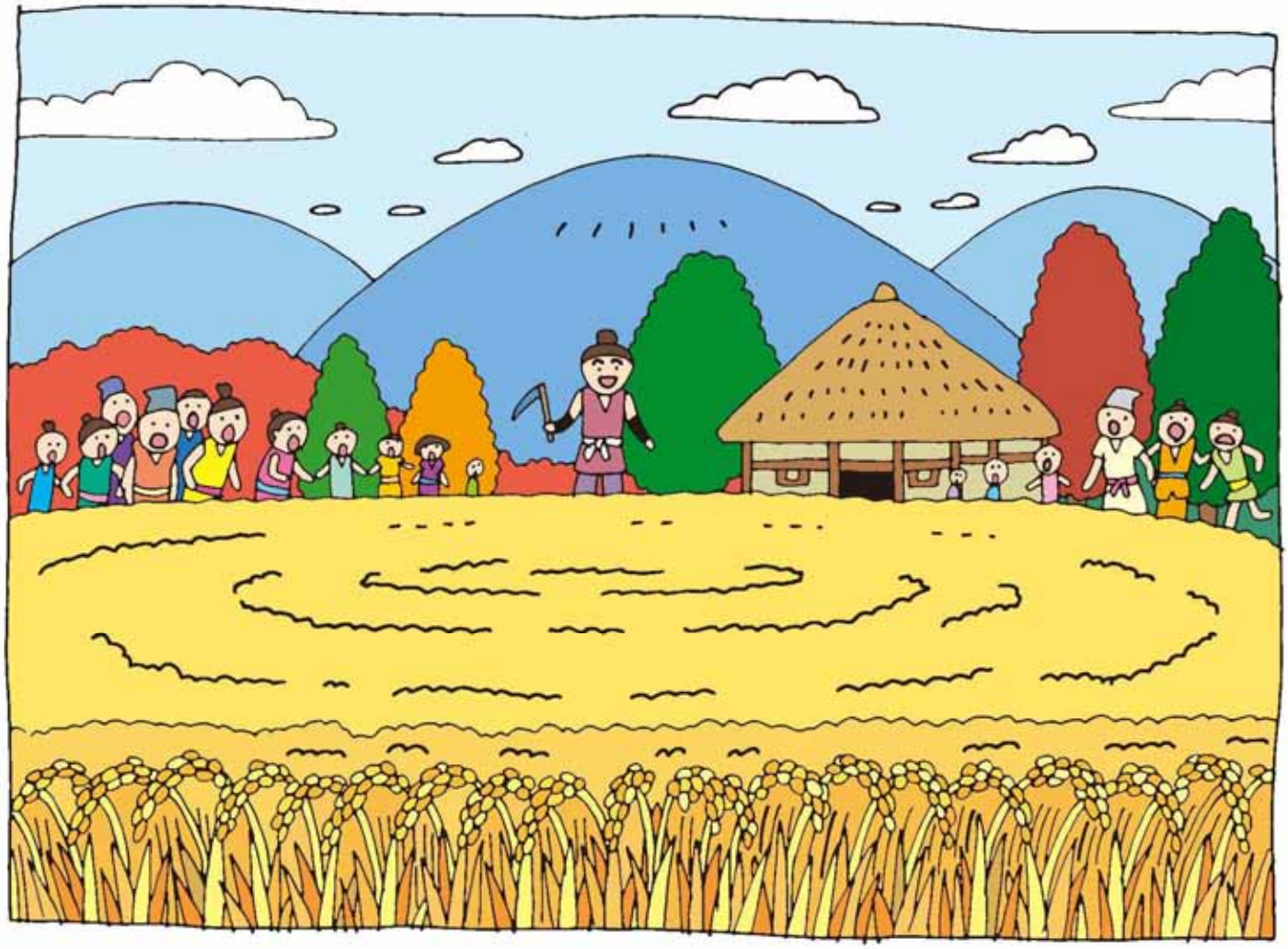
【ナレーション】
　二人はお地蔵様に向かい熱心にお経をあげるのでした。

奥玉の地蔵田

【ナレーション】
しかし、その次の年は寒い一年となりました。
なかなかお日さまが出ず、長い雨も続きました。
やっと来た夏も気温が上がらず寒さで稲も育ちません。
農民たちは来年食べるお米がなく不安な日々を過ごしています。
兄は毎日みんなのために祈りました。

【兄】
「お地蔵様どうかみんなを助けてください。
どうかお助けください。」

奥玉の地蔵田



【ナレーション】
すると、どうしたことでしょう。
弟の田んぼだけは秋になると黄金色に輝き、たわわに実をつけたのでした。
みんなびっくりです。
兄弟はお地蔵様のご慈悲と考え、実った稲を農民たちに分け与え、みんなで飢饉を乗り越えたのでした。
農民たちは兄弟に感謝し、お礼を言いました。

【兄】
「いやいや、ここで暮らせるのはみんなのおかげ。
ここまで来させてくれたのはお地蔵様のおかげ。
お礼をしたいのはこっちのほうです。」

【ナレーション】
兄弟はみんなにそう言いました。

奥玉の地蔵田

【ナレーション】

そして、兄弟は地元の人たちとともに、お地蔵様に感謝しながら、末長く幸福に暮らしました。

兄の庵は地蔵院という立派なお寺になり、弟の田んぼはお地蔵様に守られた田んぼということで、地蔵田と呼ばれるようになりました。

地蔵田は今でもたわわな稲穂を実らせています。

おしまい